

*庭師？世界を歩く＜アイスランド編＞

2017年1月28日～2月6日、今回は北の国、氷の島、アイスランド南部の大自然とオーロラ観賞の旅です。アイスランドは地球の裂け目が、地上に出ている地球上で珍しい国です。地球の割れ目「ギャウ」とは・・・。地上に現れているところは、アフリカ大陸東部にも・・・。

氷島とは言うものの、比較的暖かい国。アイスランド南端で北緯60°、国土の一部は北極圏に・・・。日本の稚内は北緯45°。稚内より遙かに北に。それでも首都レイキャヴィークの1～2月の平均最低気温は-3℃(稚内は-7℃)、平均最高気温は3℃(稚内は-2.5℃)。南部には、北西大西洋海流(暖流)が流れていることと、火山島であることが主な要因のようです。

西にはグリーンランドがあり、なぜ「氷の島」と「緑の島」なのでしょうか？どうやら、発見者であるエリクソンがグリーンランドに入植者を呼び寄せるためのイメージアップを計ったためとか・・・。ちなみに、グリーンランド上陸より前、アイスランドを発見。彼が命名したアイスランドは、その名称故に入植希望者が現れなかったそうです。氷に閉ざされた島よりは緑に覆われた島のほうが・・・。また、彼はコロンブスより約500年早くアメリカ大陸を発見したそうです。

右図、赤線枠内が今回、訪れた地域。



* 第1日目（1月28日）

1月27日(金)成田前泊。1月28日(土)、成田12:30発のスカンジナビア航空で、コペンハーゲン(デンマーク)乗継ケプラヴィーク空港着22:20(現地時間)。それからレイキャヴィーク市内のホテルへ。ホテル到着は23:30(現地時間)。成田を出てからケプラヴィーク空港まで約19時間(時差-9時間)の移動。ホテルに着いて、汗を流し、翌日の1時30分就寝。成田起床がAM7:00だったので、27時間30分の間、ほとんど睡眠無し。今回が最長記録。ヨーロッパは遠〜いと、またまた実感。今回の旅の目的は・・・。アイスランド=オーロラのイメージが強いのでは？小生は、世界中で目にする事の稀な地形、ギャウを観て、触れる事。オーロラに遭遇できれば、さらに良し。で、とにかく無事、到着。

アイスランドには、1日の内に四季があると言われているそうです。晴れたと思えば雪？雨？とにかく天気との戦いに？

* 第2日目（1月29日）

今日から本格的な観光です。今日と明日はレイキャヴィーク市内観光。ところが、1月29日、30日の両日撮影した写真、残念ながら、全て消去してしまいました。1月30日夜、不要な写真を消去しようとして、メモリー内全てを・・・。慣れているはずのカメラですが・・・。スマホで撮影した写真が数枚のみ残りましたが、ショック!!

レイキャヴィークの名前ですが・・・。ヴァイキング達が初めてアイスランドを訪れ、最初に発見し定住を始めた場所がレイキャヴィーク。「煙のたなびく湾」と言う名。湾を発見した時、温水の水蒸気を、煙と勘違い



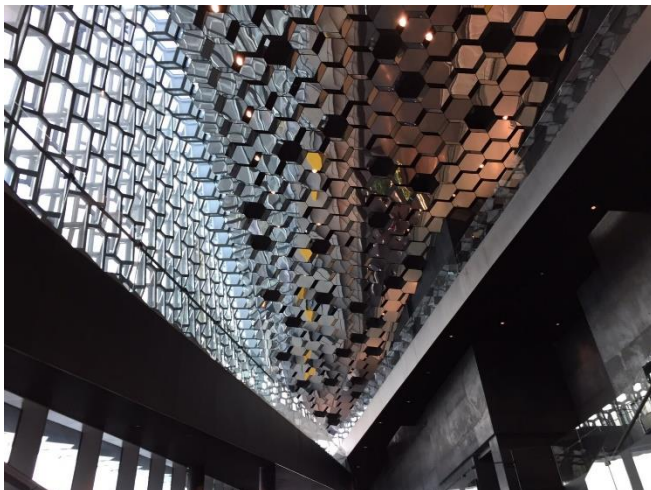
写真上：ヘウジーハウスから見たエシャン山(914m)

写真右：ハットルグリムス教会



写真下左：ハルパ ロビーの天井

写真下右：ハルパ(コンサートホール)



して、このような名前になったとか・・・。

最初に訪れたのは、郊外にあるアウルバイル野外博物館。19世紀頃の民家や集落の様子を再現した野外博物館。アイスランドの伝統的建築であるターフハウスも・・・。壁は石を積み上げ、屋根などの骨組みは木製。外側を芝で覆った構造の家。残念ですが、写真は・・・。雨漏り防止と断熱に効果があるとか・・・。

高台にあるハットルグリムス教会はレイキャヴィークを代表する現代建築の一つ。エレベーターで登った最上階から展望が素晴らしいとか・・・。あまりにも待時間が長いので、明日早朝、再度トライすることに・・・。

この日、風が強く、教会の前では、高台のせいか、「止まりたいけど止まらない」ほどの突風も・・・。おまけに路面が凍結してツルツル。なんとか転ばないでバスへたどり着く始末。正面の目抜き通りは凍結無し。アイスランド自慢の温水活用の成果？アイスランドでは、地熱発電後の温水を家庭に供給あるいは道路ヒートパイプに利用しているそうです。

午後は、港周辺の観光。かつてレーガン大統領とゴルバチョフソ連書記長が冷戦終結に向けた会談を行ったヘウジーハウスやハルパ(コンサートホール)の見学。ハルパ、中に入ると蜂の巣の中に居る感覚。これもレイキャヴィークを代表する現代建築。ハットルグリムス教会とハルパ、両建築とも外観は溶岩の柱状節理をイメージしたとか・・・。いずれもモダンな設計。そしてコーラポルティズ(蚤の市)へ・・・。

* 第3日目 (1月30日)

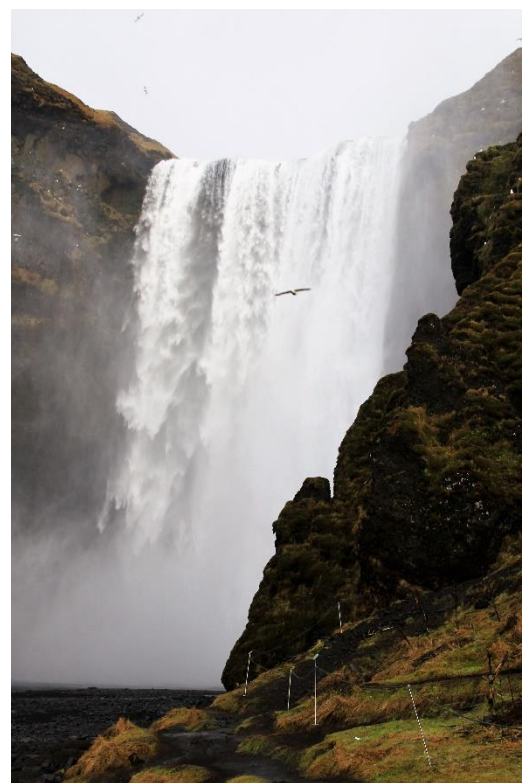
午前中はレイキャヴィークの市内観光。昨日、登れなかったハットルグリムス教会の展望台。今日も・・・。諦めて目抜き通りスコラヴォルズステグル通りの散策。午後はアイスランド有数の地熱発電所、ヘトリスヘイジ地熱発電所の見学。そして宿泊はヘットラの地平線の見える一軒宿(ホテル)へ・・・。残念ですが、誤消去のため、写真無し。大手M社の発電機が・・・。世界の地熱発電所の発電機、約70%が日本製だとか・・・。

地熱発電について少々・・・。アイスランドの地熱発電量は約670MW(世界第7位)、日本は520MW(世界第9位、36カ所で稼働中(2016.6現在:日本地熱協会の資料))。アイスランドは、電力供給の約75%を水力、約25%を地熱から・・・。火力・原子力発電所は無し。日本の地熱発電も結構、多い?ところが、全消費電力、日本はアイスランドの約50倍。日本の場合、火山=国立公園?のため、規制が強く、なかなか開発できないとか・・・。一方では開発費用が嵩むとも・・・。ヘトリスヘイジ地熱発電所は、世界第二、アイスランド第一の規模だそうです。地下2000mから熱水を汲上げ、使用後の温水はパイプラインでレイキャヴィークの家庭等に供給されているそうです。しかもこの、パイプライン、発電所から27km離れたレイキャヴィークまで送っても、2℃しか下がらない優れた断熱性能を持っているそうです。素晴らしい技術です。

* 第4日目 (1月31日)

今日は、南部の海岸沿いの観光です。全島を一周している国道1号線を東へ・・・。

島全体が火山のような地形。比較的平地の多い南部ですが、少し、内陸に入れば、山がすぐそこまで・・・。内陸の氷河から供給されるため、水量の多い



写真上左: セリャラントスフォス / 写真上右: スコウガフォス

滝もいくつか・・・。

セリャラントスフォス、かつては海岸線だったらしい。落差 60m。滝の裏側にも入れるそうです。

スコウガフォス、「雑木林の滝」という意味とか・・・。幅約 25m、落差 60m。アイスランドを代表する滝だとか。最初に上陸したヴァイキングが滝の裏側に財宝を隠したと言う話しも・・・。

さらに、この地方には、奇岩も・・・。



写真左：レイニスドランガルのトロール岩～右手の岩柱

写真上：ディルホウラエイとレイニスフィヤラ

写真下右：柱状節理

いずれもレイニスフィヤラ(黒砂海岸)にて

写真下左：レイニスドランガル（ヴィークにて）



ディルホウラエイ、英国のトロール漁船員によって「ブローホール（額の穴）」と名付けられた、巨大な穴を持つ海に突き出た、雄大かつ奇怪な断崖の岬。間氷期に海底火山によって出現したものと考えられているそうです。

レイニスドランガル、海中に並ぶ岩塊。なかでもトロール（妖精）が姿を変えたという高さ 66mのトロール岩（風波によって）削られた岩も。



柱状節理、溶岩が、急激に冷やされてできた断面6角形の柱のような溶岩。

関西では、兵庫県の城之崎温泉近くの円山川沿いの玄武洞が有名です。

黒砂海岸レイニスフィヤラ、溶岩が風化や浸食されて黒い砂になったとか・・・。

ヴィークの教会、海岸とは反対側の小高い丘の上に立っていました。アイスランドには、このような小さく、可愛い教会が・・・。

2010年4月、エイヤフィヤトラヨークトルの火山が噴火。このため、ヨーロッパ各国の領空が閉鎖され、航空機の運航ができなくなり、混乱したのをご存じの方も・・・。このエイヤフィヤトラヨークトルの麓にある農家の方が、その様子をVTRなどに記録。自費で火山博物館を開設して資料を公開。常設。写真右手の赤い屋根が、その農家。当時は、火山灰で覆われてしまったそうです。が、いまは、なんとか復活させ、かつての風景が・・・。

午後10頃、宿泊ホテルの正面に待望？のオーロラが・・・。なにせ、曇天の合間の出現なので、慌ててカメラを・・・。カーテンがたなびく光景を期待しましたが・・・。それでも、初めて目にした方々は、感動。小生は、6～7年前、カナダのイエローナイフでカーテン状にたなびき、緑から赤色への変化するみごとなオーロラを目にしているので、少々・・・。

明日からは山間部の宿に移動するので、楽しみにして、とにかく就寝。

* 第5日目（2月1日）



写真上：ヴィークの教会



写真上：エイヤフィヤトラヨークトル

写真下：オーロラ(ヘットラのホテル前にて)





写真上：サガ博物館にて

写真右：サガ博物館



ヘットラ近郊のサガ博物館を訪れた後、ネシャベトリルへの移動です。途中、地熱を利用した野菜栽培プラントとアイスランドホース牧場の見学です。

サガ博物館、アイスランド文化の根幹を成すともいえるサガを・・・物語を美しく、わかりやすい展示で説明。その物語の一つ、ニャウルのサガを展示している博物館。

アイスランド国内移動中によく見かける街路樹？防風雪林と思いますが・・・。落葉樹です。日本で防風雪林と言えば常緑樹ですが・・・？

アイスランドではカナダやアラスカと異なり、低木が目立っていました。こんなジョークも・・・。「アイスランドの森で路に迷ったら、背伸びして見れば良い」・・・。とにかく低木が目立ち、高木はチラホラ。森らしき風景は？火山活動の激しい島。ゴツゴツした溶岩塊をコケ類？が覆った荒涼とした風景が目立ちました。

もともとアイスランドはシラカンバやカバノキなどで覆われていたとか・・・。最初に定住を始めたヴァイキング達が、住居や暖房、家畜の餌用に伐採。もともと、寒冷で植物の育ちにくい環境や火山の噴火、

小氷河期も災いしたようです。現在では、植林を進めているようですが、・・・。このため、幼木が大部分を占め



写真上：移動途中で見かけた防風雪林？

写真下：移動途中で見かけたコケの群落



ているようです。ここで、樹種ですが、なぜ落葉樹が多いのか？勿論、常緑樹であるトウヒの仲間も見られますが、少数派のようでした。写真の樹種、コケの種類は不明。



写真左：トマトの芽摘み / 写真上：トマトの根周り
写真下：受粉用蜂の巣箱

いずれも栽培プラントにて

アイスランドの地熱利用の43%が暖房、40%が発電、5%が養魚、農業用の温室利用は2% (2013年アイスランドエネルギー局エネルギー統計) だそうです。

訪れたのはレイコルトにあるフリードヘイマル社。地下700mの源泉から汲上げた温泉を利用。室内(温室内)は26℃。アイスランドでは、2010年時点でキュウリの90%、トマトの75%が国内のグリーンハウス(温室)で生産されているとか・・・他にパセリやレタスも。まだまだ少ないもののイチゴも・・・今は2017年。もっと増えていると思います。

トマトの蔓の長さは9m。温度管理や液肥の供給など、全てパソコン。最近スマホで容易に管理できているようです。受粉には蜂を利用。ミツバチなのか聞いてみると、ハチとの回答。ハニーではなさそうでしたが・・・？蔓の芽摘みは人力です。

ここでは、同じ温室の一角にレストランを併設。名物はトマトスープ。勿論、いただきました。思いのほか、アッサリ？美味。全体が緑色のトマトも・・・。食べませんでした。ジュースでいただきました。

ここには、アイスランドホース牧場も併設。アイスランドの固有種。ノルウェイやスコットランドから持込まれたポニーが雑交配して成立した種だそうです。アイスランド国内での飼育はこの種だけに規制。国外に出た個体は、品評会等でたとえ優勝しても、二度とアイスランドへ戻すことはできないほどの徹底。一種ですが、毛色は40種もあるそうです。それにしても、優しそうで可愛い～イ!!

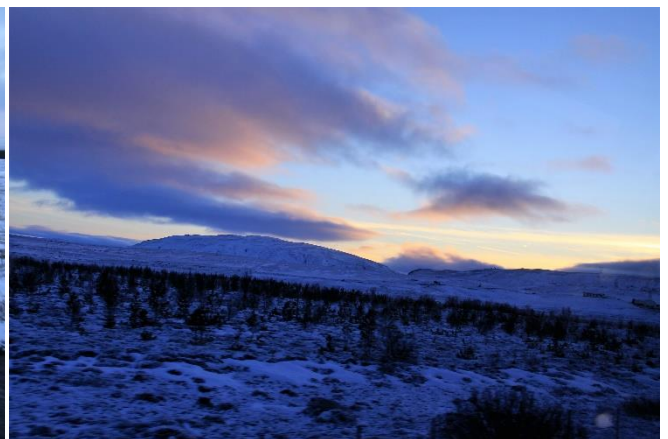




写真上左 / 写真上右 / 写真右
 アイスランドホース (アイスランドホース牧場にて)

* 第6日目 (2月2日)

後半に入りました。アイスランドを、ほぼ東西に分断している大地溝帯、地球の割れ目ギャウを目玉としたゴールドデンサークルの観光。この地溝帯の地下はマグマが上昇し、東西に流れ出て、年に東西各方向へ1cmほど移動させているという原点です。このような場所が、地表に出ているのは、珍しく、アイスランドの他に、アフリカ大陸にあるのみとか・・・。ともかく、火山活動の激しいところ・・・。



写真上左 / 写真上右 R360 にて

西側は北米プレート、東側はユーラシアプレート。二つのプレートの反対側は日本列島を東西に分断するように衝突(駿河湾から日本海に至るフォッサマグナ)。日本海溝は北米プレートとフィリピン海プレートの下に太平洋プレートが潜んでいる所。東日本大震災を始め、過去、巨大な地震を繰返してきた場所です。

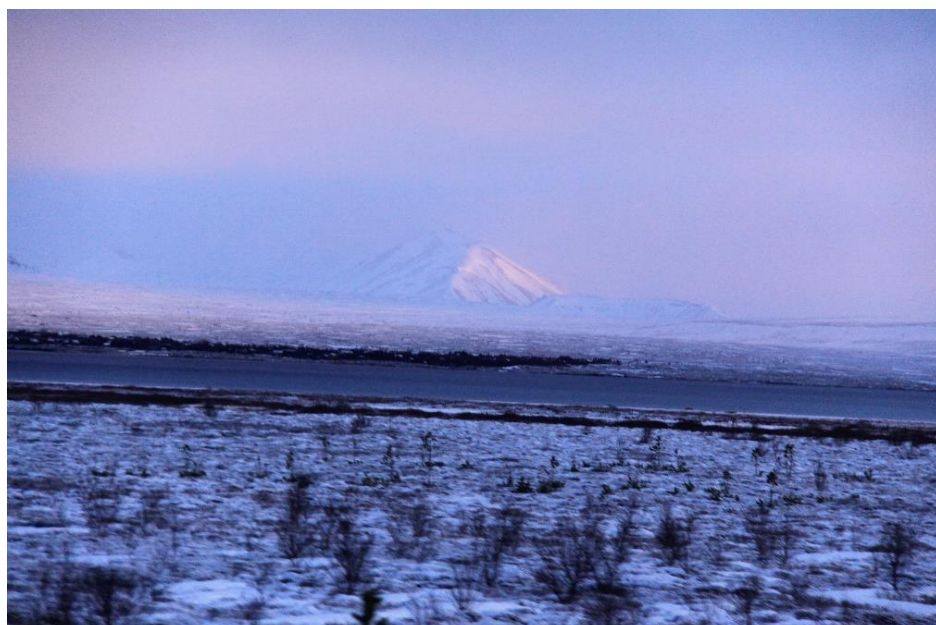
AM10時出発ですが、まだまだ明け切っていません。朝焼けの中の移動です。ちなみに、日の出は午前10時前。おかげで、朝焼けの雪景色を楽しみながらの移動です。時折、ウツラ、ウツラ・・・。

ヘクラ山(1491m)、アイスランドで最も活動している活火山で随一の成層火山。最近の噴火は2000年2月26日。10日ほど続いたそうです。

ゴールデンサークルと聞けば環状列石を思い浮かべる方も多いかと・・・。実は、主に、景勝地グトルフォス、ゲイシール、シンクヴェトリル国立公園の三カ所の景勝地を巡ることからの命名のようです。地図上では、ほぼ東西に一直線に並んでいます。シンクヴェトリル国立公園は明日の予定。

水力発電所、ウルフリョウスヴァトン下流で見かけました。堰堤が低いのが日本との違いでしょうか？

シンクヴァトラヴァン東岸のR36で見かけた集落と一軒家です。山間部でよく目にする住宅様式です。一軒家の周囲の木立は、防風雪林と思いますが、やはり



写真上：ヘクラ山 1491m (R360 にて)



写真上：ウルフリョウスヴァトンとヘクラ山(中央奥、R360 にて)

写真下：水力発電所(ウルフリョウスヴァトンにて)



落葉樹。落葉樹でも、効果はどの程度有るのかよく解りませんが・・・。



写真上左：シンクヴァトラヴァン東岸の集落(R36にて)

写真上右：シンクヴァトラヴァン東岸の一軒家(R36にて)



写真上左 / 写真上右：グトルフォス

グトルフォス、アイスランドでも有数の人気スポットだそうです。幅 70m、落差 32m。日の光を受けた滝が、黄金に輝くことから名付けられたそうです。黄金の滝です。この滝、一時期、外国資本による水力発電所の建設計画が・・・すでに用地の買収も終わっていたのですが、一少女が、反対運動を起こし、建設を断念させたそうです。少女の肖像(成人後の姿だそうです)が有るそうですが、滝に見とれて、肖像を見るのを忘れてきました。

この滝の姿、一万年後にはどうなっているのでしょうか？滝の落壁が徐々に後退して、アメリカのナイアガラの滝などのように、さらに上流へ・・・。景観もかなり・・・。

ゴールドデンサークル二つ目の人気スポット、ゲイシールです。アイスランドを代表する間欠泉。アイスランド語で「噴出」を意味し、英語の間欠泉(Geyser)の語源になっているほど・・・。ゲイシール間欠泉はかつて 60m～70mの高さまで噴き上げていたそうですが、今は時折、噴出する程度とか・・・。

ゲイシール間欠泉以外にも 10 個以上の間欠泉がここにあり、現在、最も活発に活動しているのがストロククル間欠泉だそうです。ストロククルはアイスランド語では「攪拌」を意味し、1789 年の地震の際に出現した間歇泉で 7～8 分毎に 30mの高さまで豪快に噴き上げるそうです。



写真上：ゲイシールにて

写真右：ストロックル間欠泉(ゲイシールにて)



写真上左：ヨーロッパダケカンバ（カバノキ科カバノキ属）の樹姿

写真上中：同 幹 / 写真上右：同 小枝と葉芽

（いずれもゲイシールにて）

ゲイシールで見かけたヨーロッパダケカンバ(カバノキ科カバノキ属)とオウシュウトウヒ(マツ科トウヒ属)。ヨーロッパダケカンバは、防風雪林など、車窓ではよく見かけた防風雪林？に使用されている樹木と思いますが・・・。間近で観るのは初めて。シラカンバと近縁。ヨーロッパシラカバとも・・・。

アイスランドの樹木には、落葉樹としては、シラカンバ、ポプラ、ナナカマドなどが、常緑樹ではトウヒなどがあるようです。

オウシュウトウヒ〜別名ドイツトウヒ(マツ科トウヒ属)。一見、モミ(マツ科モミ属)に似ていますが・・・。その違いは？

球果が上に向かって立つのがモミ、下にぶら下がるのがトウヒ。それ以外に、モミ属では、葉枕(葉柄の、茎に付く所にある膨らんだ部分)が吸盤状、葉が落ちた後あとも、円形の葉痕が残ります。

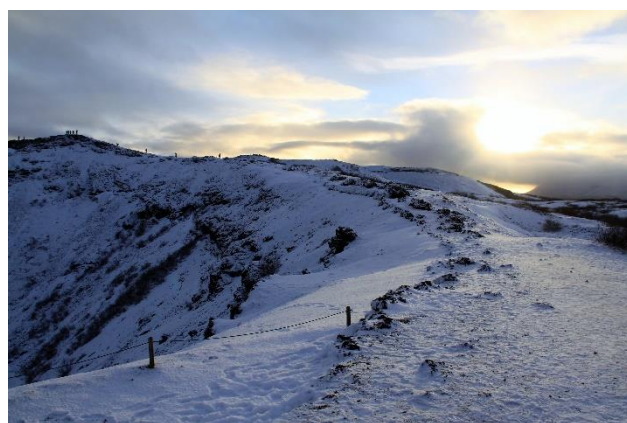
トウヒ属では、葉枕が著しく発達し、小枝にも深い溝ができます。触ると凸凹感が・・・トウヒ属の一般的な葉の断面は扁平。オウシュウトウヒの葉断面は菱形が多いそうです。

ケズリ火口湖、約3千年前の古



写真上左：オウシュウトウヒ(マツ科トウヒ属)の樹姿

写真上右：同 小枝 (いずれもゲイシールにて)



いクレーター。火山の噴火ではなく、マグマ溜りが陥没してできた陥没湖だそうで、噴火した証拠は見つかっ

写真上左 / 写真上右：ケズ火口湖

ていないそうです。長辺は270mで短辺は170m。火口の底は深さ55メートル。内部の水位は地下水位と同じだそうです。クレーターの縁の小径を歩いて一周できるようですが、何せ、アイスパーンの状態。滑落を想像して、とてもとても・・・。時間に余裕が無かったのも幸い・・・？夏にはここでコンサートが開かれることもあるそうです。クレーター内の草が生えた斜面に観客用の席が設けられ、火口湖にゴムボートを浮かべて演奏されるそうです。

* 第7日目 (2月3日)

今日は、世界文化遺産にも登録されている「シンクヴェトリル国立公園」を訪れます。地上で「地球の割れ目」が見られる所、そして歩けるところです。アイスランドを、ほぼ南北に貫く、幅約10kmの地溝帯。北米プレートとユーラシアプレーとを、歩いて行き来できる場所です。

展望台から地溝帯の一部シンクヴァトラヴァンの様子。陥没湖です。地震によって地盤が地下水の水位以下に沈みこんで誕生したもので、湖の水は大部分が地下の湧き水。ミネラルの含有量は極めて高く、湖水はいつも極めて冷たい。水は冷たいものの、養分が豊富に含まれているので植物の生育に適し、湖には2種のタラとトゲウオ(トゲウオ科トゲウオ属)が確認されているだけだそうです。



写真上：シンクヴァトラヴァン(展望台にて)

トゲウオは独特な巣作りや求愛、子育てなど、よく発達した繁殖行動をするので、動物行動学の研究対象となっているそうです。

国立公園内で最も大きな割れ目が「アルマンナギャウ」。左壁が北米プレート、右壁はユーラシア・・・。暖かいのかと思いきや、遊歩道はアイゼンが必要なほどカチカチに凍結。歩くのに一苦労。



写真上左：アルマンナギャウ(展望台にて)



写真上中：アルマンナギャウ内の遊歩道 / 写真上右：法律の岩址



アルマンナギャウの、ほぼ中程にアイスランドの国旗が掲揚されていました。930年に世界で初めての民主会議(世界最古の国会アルシング)が開かれ、憲法を制定し、議会民主主義を確立した歴史ある場所だそうです。

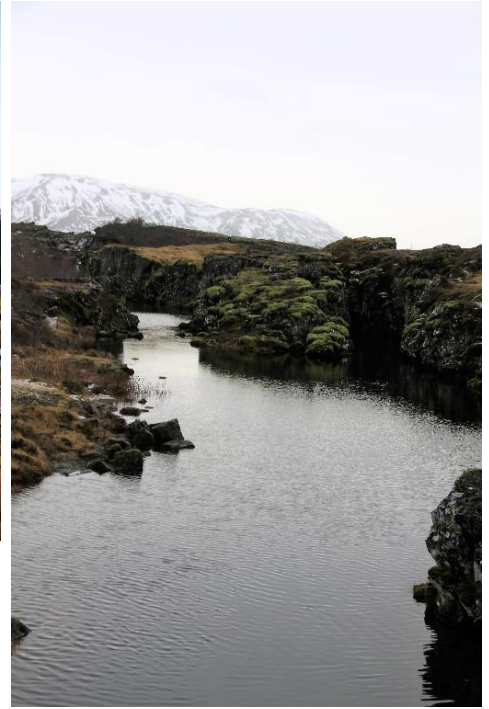


写真上左：シンクヴァトラキルキヤ教会

写真上右：ギャウの一つ

写真下左：湿地に咲いていました。名称不明

写真下右：オクスアルアウルフォス



写真上：ネシャベトリル地熱発電所

地溝帯の底？は自然豊かな湖水地方を想像するような風景でした。とても、年1cmで拡大している場所とは思えません。

小規模のギャウですが、透明度の高い水を湛え、中には数多くコインが・・。すぐ傍には、コインを投げ入れないでくださいと書かれた立て札も・・。

オクスアルアウルフォス、かつては処刑の場所だったとか・・・。

宿泊ホテルの間近にある、ネシャベトリル地熱発電所。地溝帯は、熱エネルギーの宝庫。とは言うものの、地溝帯の中、いたるところにギャウが存在する場所。素人の小生にとっては、日本では考えられない立地場所。活断層に比べると安全なのでしょうか？

* 第8日目（2月4日）

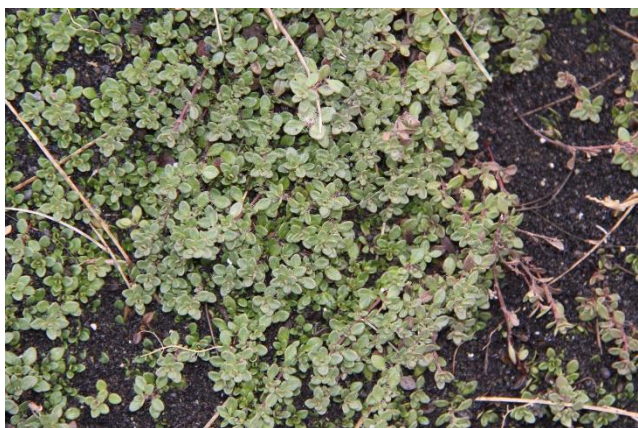
観光最終日です。今日は、ネシャベトリルからケプラヴィーク国際空港近郊のレイキャネス半島へ移動。



写真上左：二つの大陸に懸かる橋(アウルファギャウにて) / 写真上右：アウルファギャウにて

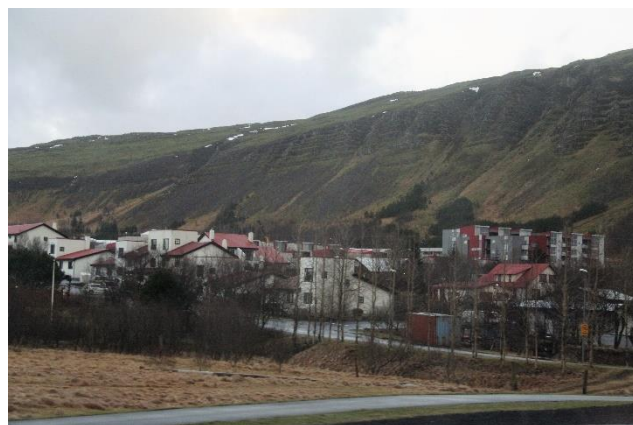
レイキャネス半島の大部分はシンクヴェトリル国立公園へ続くレイキャネス地溝帯。アイスランドの西南、ここからギャウ(割れ目)の地上部が始まる所。

「二つの大陸に懸かる橋」。左壁が北米、右壁がユーラシア、橋の下が新しく生まれた大地。レイキャネス半島に入ると、至る所に大小の亀裂が・・・異様な光景でした。このような環境でも、シッカリと根を降ろしている植物がありました。名称不詳



写真左 / 写真上：レイキャネス地溝帯にて

山間部から都会へ出ると、住宅の姿が、一変。二階建の住宅と集合住宅が目立ちました。特に、ケプラヴィークでは、宅地開発真っ最中のようなものでした。完成した住宅も真新しく・・・。いずれも、庭のスペースはありますが、寒冷地仕様？芝庭です。除雪スペースでしょうか？



写真上左 / 写真上右：レイキャヴィーク郊外にて



写真上左 / 写真上右 / 写真右：ケプラヴィークにて

いよいよ、今回の旅の締めくくり？ブルーラグーンでの入浴です。
ブルーラグーン・・・ご存じの方も、すでに入浴された方も多いかと・・・。世界最大の露天風呂。自然湧出の温泉ではなく、隣接する地熱発電所の温排水を利用。もともと排水池だったところ。温泉成分にシリカが含まれていたため、排水池の周囲がシリカの膜で水密性が高まり、プールとなったものだそうです。偶然、生まれた人気スポット。今では拡張されて面積約 5000 平方mに・・・。



写真上：ブルーラグーン(左後方はソルビヤルトナルフェットル山 231m)

プールの壁は自然石。シリカの膜でツルツル。ここの泥は美容にも良いとのこと、泥パックが人気。小生も・・・？年若返った？たしかに、気持ち、若返った気分・・・。皮膚病の治癒効果もあるそうです

スヴァルスエインギ地熱発電所、岩石の割れ目から吹き出る蒸気熱利用の地熱発電所で、レイキャネス半島全域の電力および熱湯による地域暖房をまかなっているそうです。この辺りはレイキャネス半島でも最も新しい溶岩台地で、地下火山活動は今でも活発で火山クレーターなども点在するそうです。



写真上：スヴァルスエインギ地熱発電所とブルーラグーン

* 第9日目～10日目（2月5日～6日）

早いもので、今日は帰国の途へ。2月5日、8:00(現地時間)発のアイスランド航空でコペンハーゲン(デンマーク)乗継ぎ、スカンジナビア航空で成田へ(2月6日10:40着)。国内線に乗継いで伊丹16:05着。無事帰国です。ケプラヴィーク国際空港では、いったん誘導路へ出たものの、別の駐機場へ・・・。そしてメンテナンス要員が機の周囲を・・・。40分ほど経ってやっと、離陸。何があったのでしょうか？機体のトラブルだと思いますが、何のアナウンスも無ので・・・。

アイスランドの目玉観光ルート的一部分を巡っただけですが、自然の一部分を満喫することが・・・。休むことなく国土を引き裂く？国土を拡大する地溝帯を目の当たりに・・・。自然の力は凄い。期待していたネシャベトリル3泊のオーロラ観測が不調。残念。少々、心残り。

ご参考までに時差ですが、アイスランド-9時間、コペンハーゲン-8時間です。アイスランドから約23時間かけて伊丹(含、乗継ぎ待ち時間)。加齢とともに時差ボケ解消に時間が・・・。今回は？日になるのでしょうか？ちなみに、10年前は、ほとんど感じませんでした。

今回の旅の中で、太陽を目にした時間は？終日太陽が出ていた日、記憶にはないのですが・・・。少し山間部に入れば、ゴツゴツした岩塊が支配する荒涼たる景色が広がっていました。おかげで、遠くまで見渡せました。太陽の日差しのある場所、雪か雨が降っているだろうと思われる場所、その間には雲に覆われた場所・・・。しかも時々刻々と移動。かなり天気の変化が大きいということが実感できました。夏のアイスランドは、花と緑に覆われるそうです。一見かも・・・。

～ 完 ～

2017年3月3日 by SM記

備考：今回は主に下記を参考資料として利用しています。

- ① Wikipedia、②アイスランド観光文化研究所資料、③地球の歩き方(ダイヤモンド社)